

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
キリスト教学 I (Christianity I)		青野 和彦

授業の到達目標

本学の建学の理念、キリスト教の教典である旧約・新約聖書の概要（時代背景、メッセージ）の学びを通して、キリスト教の影響を受けてきた諸外国の文化や社会生活に多大な影響を与えてきたキリスト教とその母胎となったユダヤ教の特色の理解を目標とする。またこの学習を通して、現代世界が抱える諸課題、特に異民族間の平和と共生に対する聖書のメッセージをさらに多角的に把握することができよう。

授業の概要

本授業では、①本学の建学理念と設立の経緯、②旧約聖書、③新約聖書の概要、時代背景、各文書のメッセージを聖書、テキスト、配布資料を通して講義してゆく。最終的にそれらの学習を通して、上記の目標を達成してゆく。

授 業 計 画

I 第 1 回：	授業オリエンテーション、キリスト教と建学の精神と設立の経緯	III 第 9 回：	預言者達の活動
II 第 2 回：	「旧約聖書」の概要（緒論）と時代背景	第 10 回：	信仰による文学
第 3 回：	「天地創造物語」① 一人間と世界の創造一	第 11 回：	新約聖書の概要（緒論）と時代背景
第 4 回：	「天地創造物語」② 一人間の「原罪」一	第 12 回：	福音書の内容とイエス・キリストの生涯
第 5 回：	族長の生涯（アブラハム、イサク、ヤコブさらにヨセフ）	第 13 回：	イエス・キリストの「たとえ話し」（Parable）の思想とメッセージ
第 6 回：	モーセと出エジプト	第 14 回：	イエス・キリストの十字架と復活の意味とメッセージ
第 7 回：	イスラエル王国の成立と王たちの生涯（サウロ、ダビデ、ソロモン）	第 15 回：	教会の歩みと使徒達の活動（ペトロ、パウロ）
第 8 回：	王国の分裂と滅亡史		

テキスト： ・日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳 日本聖書協会、1987年。
 ・川崎 正明『旧約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。
 ・四竈 揚『新約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。

参考書： <・大城 実 『聖書と思想と世界』 沖縄コロニー印刷、2000年。>

評価方法・評価基準：原則として、期末試験、レポート、授業中の態度、

授業への参加度を総合的に勘案して最終的な評価をする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (期末レポート)	○	○	○		○		60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演習							
授業への参加度				○			
その他							

履修上の注意： ・毎回『聖書』（新共同訳版）を購入の上、必ず持参すること。

・「月曜礼拝」の出席を奨励する。

・出席(毎回とる)、課題の提出および学生として相応しいマナーを心がけること。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
キリスト教学Ⅱ (Christianity II)		青野和彦・望月智

授業の到達目標

本授業は、次の目標を持つ。西洋キリスト教史、日本のキリスト教史の特色（主に事件と人物の思想）の正確な把握、もう一つの世界宗教であるイスラム教の特色とキリスト教との関係の理解。またこの学習を通して、現代の国際社会の諸相を正確に読み解き、平和構築に向けて必要な教養の習得も目指したい。

授業の概要

キリスト教の歴史的発展を原始キリスト教会から現代までの歩みを概観し、歴史に生きるキリスト教会の遺産を検証しつつ、現代世界と社会に横たわるキリスト教世界の諸課題を探る。

授業計画

第1回： 授業オリエンテーション(概要と目的、評価方法の説明)	第9回： 古代キリスト教史③：古代カトリック教会
第2回： 日本のキリスト教史	第10回： 中世キリスト教史①：キリスト教のゲルマン民族への浸透
第3回： 米国キリスト教史	第11回： 中世キリスト教史②：十字軍衛生の功罪、中世文化（スコラ学、建築、音楽）及び大学（universitas）の設立と発展
第4回： 人種差別とキリスト教①：16世紀中南米キリスト教史	第12回： イスラム教史（成立と特色）
第5回： 人種差別とキリスト教②：南アフリカの「アパルトヘイト」	第13回： 宗教改革史①：M. ルターによるドイツ宗教改革
第6回： 視聴覚教材による学習（アパルトヘイトに関して）	第14回： 宗教改革史②：J. カルヴァンによるスイス宗教改革史
第7回： 古代キリスト教史①：初代教会史	第15回： カトリックの反宗教改革史（イエズス会を中心に）
第8回： 古代キリスト教史②：キリスト教会とローマ帝国	

テキスト：・日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳、日本聖書協会、1987年。
・斎藤正彦『キリスト教の歴史』、新教出版社、2005年。
※使用テキストは初回講義時に説明するので、確認してから購入すること。

参考書：

- ・カール・ホイシ著・荒井献〔他〕訳『教会史概説』、新教出版社、1990年。
- ・荒井献・出村彰・出村みや子『総説キリスト教史1～3』、日本キリスト教団出版局、2006・07年、他。

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (期末レポート)	○	○	○		○		60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演習				○			
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：・保育科の一部のクラスでは「新約聖書学」をテーマとして講義する。
その「授業計画」は初回の授業時に配布・説明する。なおその際、教科書も指定する。
・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。
・出席(毎回とる)、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。
・「キリスト教Ⅰ」を履修しておくこと。

授業科目名	2単位 (1-1)	担当教員
表現技法 (Reading and Writing Skills)		上原明子・糸洲理子・藤原幸男

授業の到達目標

知識理解：新書読書の意義を認識し、実践する
 思考判断：ロジカルシンキングとクリティカルシンキングを鍛える
 関心意欲：社会事象・課題について、自分事として捉え、提言することができる
 態度：学ぶことの喜びを感じ、学ぶことへの責任を自覚する

授業の概要

新書読書を通して、読書力、要約力、批判的思考力、論理的思考力を鍛える。
 世界をこまやかに受け取る感性を育む

授業計画 (※クラスの状況に応じた内容変更あり)

第 1 回： オリエンテーション/図書館ツアー (前期クラスのみ)	第 9 回： ブックリポート (1)
第 2 回： 精読 (1)	第 10 回： ブックリポート (2) 下書き提出
第 3 回： 精読 (2)	第 11 回： ブックリポート (3) 口頭報告・清書提出
第 4 回： 批判的読み	第 12 回： 提言文 (1)
第 5 回： 要約 (1)	第 13 回： 提言文 (2)
第 6 回： 要約 (2)	第 14 回： 提言文 (3) 下書き提出
第 7 回： 要約 (3)	第 15 回： 提言文 (4) 口頭報告・清書提出
第 8 回： 要約分まとめ	第 16 回： まとめ

テキスト：指定の新書を購入のこと

参考書：講義にて紹介

評価方法・評価基準： 1 ブックリポート 2 提言文 3 課題への取り組み

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							20
授業態度			○	○			評価に加えず
受講者の発表				○	○		30
演習							評価に加えず
授業への参加度				○			評価に加えず
その他							評価に加えず

履修上の注意： ・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
コンピュータリテラシー (Computer Literacy)		内間清晴・高江洲義尚

授業の到達目標及びテーマ

PC の基礎的操作方法を習得させるものであるが、具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法等を実践的に修得すること

授業の概要

- ① コンピューター操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、書こう、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピューターを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。
- ② 毎回の演習内容を復習し次回の演習の予習を行う。(15回分の講義内容は指定フォルダにあります。)

授 業 計 画

- 第 1 回： オリエンテーション：①パソコンの概念 ②使用登録・パスワードの設定 ③電子メールの設定
- 第 2 回： パソコンの概念：①Windows の基本操作 ②OS の基本操作 ③インターネット
- 第 3 回： Word2007：①Word の基本操作 ②文章の作成保存
- 第 4 回： Word2007：①文章のデザイン
- 第 5 回： Word2007：①書式の応用
- 第 6 回： Word2007：①表示能力を高める ②オブジェクトの挿入
- 第 7 回： Word2007：①はがき文書の作成 ②図形の作成
- 第 8 回： Word2007：①表の作成 ②表の編集
- 第 9 回： Excel2007：①基本操作 ②一覧表の作成 ③データの入力
- 第 10 回： Excel2007：①計算式の入力
- 第 11 回： Excel2007：①関数式の入力
- 第 12 回： Excel2007：①グラフの作成
- 第 13 回： Excel2007：①グラフのデザインおよびレイアウト
- 第 14 回： Excel2007：①データの並べ替え ②データの検索 ③データへの条件設定
- 第 15 回： まとめ

テキスト：『例題 30+演習問題 70 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト

参 考 書：

評価方法・評価基準：課題 80 点 授業に臨む姿勢 20 点

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演 習		○	○	○	○	○		80
授業への参加度		○	○	○	○	○		20
その他								

履修上の注意：各自 USB メモリーを準備すること

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
キリスト教平和学 (Christian Peace Studies)		金永秀・神山繁實 中原俊明・大城実

授業の到達目標

授業の概要

聖書における平和理解をはじめ、歴史の中、特にキリスト教の歴史の中にみられる主要な平和論又は反暴力運動を概観し、いわゆる「ポスト冷戦」時代における平和運動、特に沖縄における平和運動の重要性に目覚め、「平和の島・沖縄」建設への道を模索する。

授 業 計 画

第1回： コース・オリエンテーション	第9回： ナチスの台頭と教会闘争「バルメン宣言」における平和の理念（ボンヘッファアーとバルト）
第2回： 聖書における平和（シャロームとエイレーネ）	第10回： 「第二次大戦かにおける日本基督教団の責任についての告白」における平和
第3回： 聖書における国家権力と宗教	第11回： フィールド
第4回： アウグスチヌスにおける「地上の国」と「神の国」	第12回： 戦争沖縄における土地闘争と平和論の特質
第5回： 宗教改革者（特にアナバプテスト）の戦争と平和理解をめぐって	第13回： 戦争と女性
第6回： 「大交易時代」の琉球の夢と理想	第14回： マルチン・ルター・キング牧師
第7回： ガンジーの非暴力運動と思想	第15回： まとめ
第8回： 「15年戦争」の結末としての沖縄戦	

テキスト：

参 考 書： クラスで配布する。

評価方法・評価基準：

レポート 1) ブック・レポート 2) フィールドのレポート 3) 口頭及び文章によるリサーチのレポート

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
キリスト教人間学 (=四大:キリスト教倫理) (Christian Ethics)		青野 和彦

授業の到達目標

本教科は聖書とそのキリスト論を根拠として、人間の生きる「道」を探求する学びである。キリスト教の死生観等の内面的テーマと共に、現代社会が直面する諸問題に対する聖書の観点を解き明かすことを目標とする。またその学習を通して、キリスト教学（概論）で学んだ聖書の知識をより深めることも目指す。

授業の概要

上記目標を達成すべく、キリスト教人間学（倫理）の主要な領域テーマについて、①それぞれのテーマに対する聖書の見解の把握、②その中で提起される過去から現代にわたる諸問題を解説する。

授業計画

第1回:	授業オリエンテーション
第2回:	生命（聖書における「生」の意味、聖書から見た「クローン人間」、「人工妊娠中絶」など）
第3回:	死（テーマ：安楽死と尊厳死、ホスピス・終末期ケア、エイズ、自殺から1つ）
第4回:	生命と死：3.11について考える
第5回:	愛（アガペーとエロース）
第6回:	幸福
第7回:	罪
第8回:	男性と女性（同性愛者、性同一性障がい者の人権等）

第9回:	結婚と家庭（キリスト教の結婚観、家庭観、子供を巡る環境など）
第10回:	労働と余暇（キリスト教から見た労働問題、所得格差など）
第11回:	社会と福祉（キリスト教から見たボランティア、少子高齢化問題など）
第12回:	国家と政治（キリスト教と「愛国心」、「君が代」・「日の丸」など）
第13回:	戦争と平和①（聖書の説く戦争と平和）
第14回:	戦争と平和②（キリスト教から見た核兵器の保有の問題）
第15回:	イスラム教とキリスト教

※必要に応じて視聴覚教材も使用する予定

テキスト：・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987年。
・原 栄作『現代に生きる人間像』（聖書と人間3）、新教出版、1992年。
※テーマに関連する資料も毎回配布する。

参考書：・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988年。
・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座 現代キリスト教倫理』（1-4巻）
日本キリスト教団出版局、1999年。

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (期末レポート)	○	○	○		○		60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。
・出席(毎回とる)、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。
・「キリスト教学Ⅰ」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
文学と読書 (Literature and Reading)		上原 明子

授業の到達目標

知識理解：文学に対する造型を深める
 思考判断：鍛錬型読書を通じ、批判的思考力、共感的想像力を培う
 関心意欲：単独読書と協同読書の体験により、読書の喜びを味わう
 態度：作家の思考や作品のテーマ、文体に対して深く感応する

授業の概要

青年期に必要な鍛錬型読書を体系的に学び、読書力の養成を行なう。多様な文学作品に触れることで、自己の生き方への考察を深めると同時に、作品の鑑賞、作家論の学習に加え、作品朗読を行うことにより、読書の身体化を図る。

毎回の講義の始めに副読本の15分読書を行い、協同読書の楽しみを学ぶ。

授業計画

第1回：オリエンテーション・課題説明・読書体験のフィードバック	第8回：作品の中のリズム（1） 俳句（小林一茶、松尾芭蕉、与謝蕪村）
第2回：鍛錬型読書について	第9回：作品の中のリズム（2） 琉歌（吉屋チル、他）
第3回：宮澤賢治のエボック（1） 課題報告①宮澤賢治について	第10回：作品の中のリズム（3）「平家物語」
第4回：宮澤賢治のエボック（2） 「よだかの星」（1）鑑賞	第11回：課題報告③ リズムある詩・作品について
第5回：宮澤賢治のエボック（3） 「よだかの星」（2） 「火のイメージ」を読み解く	第12回：文学アラカルト（夏目漱石、太宰治、芥川龍之介、森鷗外、他）
第6回：宮澤賢治のエボック（4） 「よだかの星」（3） テーマに迫る	第13回：課題報告④ 15分読書・読み愛について
第7回：課題報告② 「生きる」ことをテーマとして いる絵本・小説について	第14回：課題報告
	第15回：授業内試験・フィードバック

テキスト： シラバスに示された作品や資料のコピーを教師が適宜配布する。

参考書： 授業の中で指示。

評価方法・評価基準：教室活動への参加態度、課題の提出、授業への参加度、クイズや期末試験の成績、発表への取り組み等を総合的に評価する。履修者が準備する場合もある。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					20
小テスト・ 授業内レポート		○	○				20
授業態度			○	○			30
受講者の発表		○	○	○			30
演習							評価に含まず
授業への参加度							評価に含まず
その他							評価に含まず

履修上の注意： 副読本を購入してください。(毎回の講義の協同読書にて使用)

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員																																																																
はじめての日本語教育 (Japanese language teaching Introduction)		上原 明子																																																																
授業の到達目標 知識理解：日本語の構造、日本語教育について意識的になる 思考判断：教えるという視点から日本語に触れることで新たな発見ができる 関心意欲：自文化と異文化への理解を通して多文化共生について考えるきっかけとなる 態度：他者理解と自己認識が育まれる																																																																		
授業の概要 日本語を教える立場から視点を変えて学ぶ、生きた日本語・日本文化の講義。 「共に生きる」という社会人としての姿勢を培うことにもつながる。																																																																		
授 業 計 画 (※クラスの状態に応じた内容変更あり) 第 1 回： オリエンテーション・課題配付 (外国語教授法についてのレポート) 第 2 回： 日本語教育とコミュニケーション (テキスト1章対応) 第 3 回： 教育の焦点化とスティックフィギア (テキスト2章対応) 第 4 回： 「話すこと」の教育とコミュニケーションゲーム (テキスト9章対応) 第 5 回： 「書くこと」の教育と日本語力チェック (テキスト4章対応) 第 6 回： 「読むこと」の教育と教材作成 (テキスト6章・7章対応) 第 7 回： スピーチ教育とスピーチ実践 (テキスト5章対応) 第 8 回： 日本語文法の世界 (1) 述語文 (品詞とハとガの使い分け) 第 9 回： 日本語文法の世界 (2) 自動詞と他動詞 第 10 回： 日本語文法の世界 (3) 修飾するという機能 (形容詞・副詞) 第 11 回： 日本語文法の世界 (4) 話者の視点移動 (テンス・アスペクト・モダリティ) 第 12 回： 日本語文法の世界 (5) 敬語の本質 第 13 回： 練習問題作成 (テキスト3章対応) 第 14 回： 評価することについて (テキスト8章対応) 第 15 回： 課題報告とまとめ (テキスト9章対応)																																																																		
テキスト：『はじめての日本語教育・2[日本語教授法入門]』高見澤孟 (アスク講談社)																																																																		
参 考 書 ：講義にて紹介																																																																		
評価方法・評価基準 ： 1 授業への参加態度を重視 2 毎回のフィードバックレポート提出 3 課題への取り組みと試験																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> </tbody> </table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		20	小テスト・ 授業内レポート	○						20	授業態度			○	○			40	受講者の発表				○	○		20	演 習							評価に加えず	授業への参加度				○			評価に加えず	その他							評価に加えず		
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		20																																																											
小テスト・ 授業内レポート	○						20																																																											
授業態度			○	○			40																																																											
受講者の発表				○	○		20																																																											
演 習							評価に加えず																																																											
授業への参加度				○			評価に加えず																																																											
その他							評価に加えず																																																											
履修上の注意 ： ・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください																																																																		

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
朗読の科学 (Science of Recitation)		上原 明子

授業の到達目標

- 知識理解：日本語の音声学、朗読の表現方法の理論を学ぶ
 思考判断：作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深める
 関心意欲：集団でのパフォーマンスを楽しみ、意連の喜びを感じる
 態度：グループ、クラス単位でのパフォーマンスにおける責任感を培う

授業の概要

日本語の音声学的知識と、実践的な音声表現を学ぶことにより、新しい切り口からの文学体験を行うことを目的とする。15回のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、表現のための実践トレーニングを行う。

毎回のクラスは、3つの部分から構成されている。

- I. 体操・呼吸法・発声
- II. 日本語の音声学・群読の技法 講義
- III. 課題への取り組み

授業計画

第1回： 「深い呼吸に支えられた深い声（1） 身体と対話する」	第9回： 「群読の技法（2）」
第2回： 「深い呼吸に支えられた深い声（2） 声を感じる」	第10回： 授業内試験・中間まとめ
第3回： 「美しいリズムと声の響き（1）母音」	第11回： 「表現する（1） 作品の読み込み・読み譜つけ」
第4回： 「美しいリズムと声の響き（2）子音」	第12回： 「表現する（2）間の取り方」
第5回： 「美しいリズムと声の響き（3） 日本語の母音と子音」	第13回： 「表現する（3）意識を連ねる」
第6回： 「美しいリズムと声の響き（4） 内に向かうリズムと外へ開くリズム」	第14回： 「表現する（4） ゲネプロ（衣装着用）」
第7回： 「美しいリズムと声の響き（5） 日本語作品のリズム構造の分析」	第15回： 発表会「ことばの渚」・最終まとめ
第8回： 「群読の技法（1）」	

テキスト： 講師作成資料を配布。

参考書： テーマ毎に指示。

評価方法・評価基準：①授業への参加態度 ②中間テスト（日本語音声学についての筆記試験）
 ③ことばのライブ参加 ④最終レポート提出

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○						50
小テスト・ 授業内レポート							評価に含めず
授業態度							20
受講者の発表			○	○			30
演習							評価に含めず
授業への参加度							評価に含めず
その他							

履修上の注意：①体操のできる服装で参加すること ②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと
 ③「ことばの渚」とゲネプロに参加できることが履修条件

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
沖縄の言語 (Okinawan Language)		仲原 穰

授業の到達目標

知識理解：沖縄語の基礎的な内容を理解し、説明できる。

関心意欲：沖縄の家庭・地域・社会などで話されている言葉に興味を持てる。

思考判断：伝統的な方言を使用するお年寄りの話しを理解することができる。

態度：方言だから簡単だろうという考えではなく、外国語を習得するような謙虚な気持ちを持つ。

授業の概要

この科目は沖縄で使われている伝統的な方言の基本的な知識を身につけ、老年層のことは聞き取ること、簡単な会話をする力を身につけることを目的とした授業である。旅行用の会話集のような決められた文だけを覚えるという手法では、老年層の方々とのお話は成り立たない。相手のことを聞いて理解し、自分が伝えたいことを相手にうまく伝える会話のキャッチボールが続かなければコミュニケーションがとれないからである。授業のなかで音の特徴や文のしくみなどの基礎的な知識を学ぶことで、お年寄りのことが自然に耳に入ってくるようになり、会話の鎖がつかがる。

授業では、会話文を基にした教科書を使って学ぶ。また、沖縄のことわざやわらべうたなども使用する。なお、授業はウチナーグチの一つである「首里方言」を中心に進める。

講義で配られたプリントを次の講義までに読み返し、自力で問題が解けるか確認してほしい。

授業計画

第1回：	講義概要、琉球語とは
第2回：	琉球諸方言の多様性
第3回：	音のしくみ（母音①）
第4回：	音のしくみ（母音②／子音①）
第5回：	文のしくみ（助詞①／指示語）、音のしくみ（母音③）
第6回：	文のしくみ（サ形容詞①／動詞①）
第7回：	文のしくみ（動詞②）、音のしくみ（子音②）

第8回：	中間試験、音と文のしくみ（ウチナーグチ独特の音、助詞②）
第9回：	文のしくみ（動詞③）
第10回：	文のしくみ（係り結び）
第11回：	文のしくみ（疑問文）
第12回：	文のしくみ（丁寧な言い方①〔動詞・形容詞〕）
第13回：	文のしくみ（動詞④）
第14回：	文のしくみ（ナ形容詞と過去の表現）
第15回：	まとめ
第16回：	期末試験

テキスト： 西岡敏・仲原穰〔著〕、中島由美・伊狩典子〔協力〕
『CD付改訂版 沖縄語の入門 一たのしいウチナーグチー』（白水社）

参考書： 外間守善〔著〕『沖縄の言葉と歴史』中央公論社
野原三義〔著〕『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社
国立国語研究所〔編〕『沖縄語辞典』財務省印刷局

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				70
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度				○			15
受講者の発表							
演習							
授業への参加度			○				15
その他							

履修上の注意：配布するプリントや資料を綴り、毎時間持参すること。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
沖縄の歴史と現在 (Ryukyu modern history)		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

沖縄の歴史に関する一定程度の知識を習得し、現代沖縄に関する諸問題を歴史的な視点から考察することができるようになること。

授業の概要

現在の沖縄をめぐる諸問題は、歴史的な堆積の上に存在するものである。その歴史的経緯を抜きに沖縄を論ずることはできない。本講義では、基地・文化・歴史教科書・アイデンティティといった沖縄をめぐる諸問題を歴史的な視点から考察してゆく。私たちが生きる沖縄の現在と沖縄近現代史とを往還することになる。

授業形態に関しては、各回のテーマを論争的なものひとつに絞り込み、授業前半で講師による解説を行い、授業後半で参加者間の意見の交換・バズ討論・発表という展開をとる。よって、参加する学生の発言が授業成立の前提となり、積極的な参加が不可欠である。

沖縄でより良く生きるための学知を提供し、話し合いの空間の創造を目指すので、より多くの学生の参加を期待する。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション	第8回： 【近代④】近代沖縄の歴史教育(1895-1940年)
第2回： 【現在①】沖縄イメージとその政治性：『ちゅらさん』『ナヴィの恋』	第9回： 【近代⑤】山之口嶺と大和で生きる沖縄人
第3回： 【現在②】歴史認識をめぐる抗争① 2007年の歴史教科書検定をめぐる沖縄県民集会	第10回： 【近代⑥】ソテツ地獄と移民、植民地
第4回： 【現在③】歴史認識をめぐる抗争② 小林よしのり『沖縄論』	第11回： 【近代⑦】「方言論争」と柳宗悦(1940年)
第5回： 【近代①】「琉球処分」論争と「琉球救国運動」(1870-1895)	第12回： 【近代⑧】沖縄戦と「方言」(1945年)
第6回： 【近代②】謝花昇と沖縄の自由民権運動(1900年前後)	第13回： 【戦後①】米軍基地の建設と沖縄経済(1950年代)
第7回： 【近代③】伊波普猷の日琉同祖論と「個性」論(1910年代)	第14回： 【戦後②】復帰運動と1960年代の「方言札」
	第15回： 【戦後③】「反復帰論」と沖縄独立論・自立論(1860年代～現在)

テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。

参考書： 池宮城秀意『戦争と沖縄』岩波書店、1980年(ブックレビューの課題図書)

評価方法・評価基準：評価に関しては、沖縄史の概説書のブックレビューの提出、各回の議論への参加具合、中間期末試験、レポートによって行う。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○						30
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		10
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演習							
授業への参加度			○	○			15
その他	○	○			○		15

履修上の注意：新聞・TV・書籍などで沖縄社会の動向に注意を払うこと

授業科目名	2単位 (1-1)	担当教員
科学リテラシー		内間 清晴

授業の到達目標

自然現象を定性的に理解し、科学的な物の考え方・見方ができる。
科学リテラシー（問題解決能力）を修得する。

授業の概要

- ① 近年理科嫌いの生徒・学生が増えている。その理由に、これまでの学校教育が計算主導型、受験対策型であったことが考えられる。今講義では、難しい数式を利用せずに、物作りを通して、自然現象を理解する。
☆特に保育科の学生に対しては、子ども達が自然現象に感動し、自然事象にたいする探求力・想像力を育成できる保育者の養成を目的とする。
- ② 毎回、講義で理解したことを提出する。

授 業 計 画

- 第 1 回： 日本の科学リテラシーについて
- 第 2 回： 大気圧、風（台風）
- 第 3 回： 力のモーメント
- 第 4 回： 波について
- 第 5 回： 光の屈折、回折について
- 第 6 回： 光の干渉、偏光について
- 第 7 回： 鏡、レンズ、カメラによる物の見え方
- 第 8 回： 電磁波
- 第 9 回： 静電気
- 第 10 回： 電流と磁石について
- 第 11 回： 電流と抵抗
- 第 12 回： 地球温暖化とクリーンエネルギーについて極低温の世界
- 第 13 回： 課題学習 1
- 第 14 回： 課題学習 2
- 第 15 回： まとめ・講義内試験

● 上記の講義内容は変更することがあります。

テキスト： 教科書は使用しません。毎時間プリントを配布いたします。

評価方法・評価基準：課題・レポート

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度							
受講者の発表							
演 習	○	○	○	○	○		50
授業への参加度	○	○	○	○	○		20
その他							

履修上の注意：

作成した実験道具は持ち帰ってもらいます。
そのため教材費として各自 2,000 円を納めてもらいます。

授業科目名	2単位 (1-1)	担当教員
文系学生のための基礎数学演習 I		内間 清晴

授業の到達目標

- ① 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なものの考え方ができる。
- ② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる。

授業の概要

- ① 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。数学の基礎・基本を十分に理解する。具体的には講義形式だけではなく、演習も行い、教養としての数学を学ぶ。
- ② 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。
- ③ 前回の講義内容の理解度を確認するために、講義の最初の部分で小テストを行う。

授 業 計 画

第 1 回 : イントロダクション	第 9 回 : 場合の数・順列と組み合わせ 2
第 2 回 : 仕事・割合 1	第 10 回 : 確率 1
第 3 回 : 仕事・割合 2	第 11 回 : 確率 2
第 4 回 : 方程式	第 12 回 : 精算・割合 1
第 5 回 : 連立方程式	第 13 回 : 精算・割合 2
第 6 回 : 損益算	第 14 回 : 順位の推論
第 7 回 : 平均の速さと速度	第 15 回 : まとめ・講義内テスト
第 8 回 : 場合の数・順列と組み合わせ 1	

● 上記の講義計画の順番・内容は変更することがあります。

テキスト：

参 考 書： 適宜に提供

評価方法・評価基準：

総合的な評価で、次の項目が大切となります。

- ① 筆記試験 60%、② 授業への参加度20%、③ レポート・豆テスト等 20%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○	○		60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度	○	○	○	○	○		20
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (1-1)	担当教員
文系学生のための基礎数学演習Ⅱ		内間 清晴

授業の到達目標

- ① 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なものの考え方ができる。
- ② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる

授業の概要

- ① 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。具体的には講義形式だけではなく、演習も行い、教養としての数学を学ぶ。
- ② 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。
- ③ 毎回の講義内容の理解度を確認するために、講義の最初の部分で小テストを行う。

授 業 計 画

第1回： イントロダクション	第9回： 関数とグラフ1
第2回： 集合論1	第10回： 関数とグラフ2
第3回： 集合論2	第11回： 図形の読み取り
第4回： N進法	第12回： 図表の読み取り
第5回： 方程式	第13回： 等差数列
第6回： 連立方程式	第14回： 等比数列
第7回： 方程式と不等式	第15回： まとめ・講義内テスト
第8回： 順列と組み合わせ	関数とグラフ

● 上記の講義計画の順番・内容は変更することがあります。

テキスト：

参 考 書： 適宜に提供

評価方法・評価基準：

総合的な評価で、次の項目が大切となります。

- ① 筆記試験 60%、② 授業への参加度 20%、③ レポート・豆テスト等 20%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		20
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度	○	○	○	○			20
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
日本国憲法 (Japanese Constitution)		仲宗根 京子

授業の到達目標及びテーマ

そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。

授業の概要

まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。

授 業 計 画

第 1 回：	ガイダンス、近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ	第 9 回：	その他の人権、まとめ
第 2 回：	日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？）	第 10 回：	統治総論（三権分立とは？）
第 3 回：	人権総論 (新しい人権、外国人、子供)	第 11 回：	国会
第 4 回：	法の下の平等	第 12 回：	内閣
第 5 回：	精神的自由 ①内心の自由	第 13 回：	裁判所
第 6 回：	②表現の自由	第 14 回：	平和主義
第 7 回：	経済的自由	第 15 回：	授業内試験・まとめ
第 8 回：	社会権（自由権との違いは？）		

テキスト： 初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第4版』有斐閣アルマシリーズ（有斐閣）

参 考 書： 初宿正典他著『目で見える憲法 第4版 』（有斐閣）

評価方法・評価基準： 期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			15
受講者の発表		○	○		○		15
演 習							
授業への参加度			○				20
その他							

履修上の注意： 受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
心理学 (Introduction to Psychology)		

授業の到達目標
身の回りの行動や現象について、科学的な捉え方をする。

授業の概要

1. 心理学の多岐にわたる分野を紹介し、扱われているトピックとその研究知見を紹介する。
2. 日常的な現象と密接に関連する心理学の知識を紹介する。
3. 心理学のモノの見方・考え方について扱い、科学的な思考や多面的にモノを把握する力を養成することを目的とする。

授業計画

第1回： コース紹介・心理学とは何か	第9回： コミュニケーションとプロパガンダ (社会心理学)
第2回： 知覚と認知 (知覚心理学)	第10回： 発達心理学の考え方 (発達心理学)
第3回： 条件づけと認知論 (学習心理学)	第11回： 発達の2つの理論 (発達心理学)
第4回： 勉強の仕方・レポートの書き方 (学習心理学)	第12回： 性役割 (発達心理学)
第5回： 思考と創造性 (学習心理学)	第13回： 心の病・ストレスとは (臨床心理学)
第6回： video鑑賞 思考と関連づけて (学習心理学)	第14回： 心理療法総論と各論 (臨床心理学)
第7回： 同調と服従 (社会心理学)	第15回： コミュニティ心理学 (臨床心理学)
第8回： 社会的ジレンマと信頼 (社会心理学)	

テキスト： 石田潤他 『ダイアグラム心理学』北大路書房 (¥2,300)

参考書：

菊池聡・谷口高士・宮元博章 『不思議現象をなぜ信じるのか』北大路書房
岡本浩一 『社会心理学ショート・ショート』新曜社

評価方法・評価基準：

到達目標 心理学の理論についての知識を持ち、関心を抱き、自分なりに理解したことを表現できる。
知識 (30%) 関心 (20%) 表現 (50%) 試験 (期末試験) 論文 (到達目標に達しているか 70%) 課題カード (30%)

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)		20%	10%			50%		70%
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演習								
授業への参加度				30%				30%
その他								

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
カウンセリング (Counseling)		柳田 正豪

授業の到達目標

カウンセリング技能：基本的な技法を用いてカウンセリングを行うことができる。
 カウンセリング理論：基本的なカウンセリング理論を学び心や認知のメカニズムを学ぶ。

授業の概要

カウンセリングを学習するにあたっては、複数の理論と技法を学ぶ必要があるといわれ、また学習方法としては、ロジャーズの「来談者中心的カウンセリング」から始めた方が適切であるといわれている。
 人間の心の問題および人間関係の問題に際しての基本的なカウンセリング理論や技術等を、講義・演習・討議をとおして学習する。

授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション： カウンセリングとはどういうものか	第 9 回： ピアヘルパー ③
第 2 回： 臨床心理とカウンセリング	第 10 回： ピアヘルパー ④
第 3 回： カウンセリング理論と技術 ① 精神分析療法	第 11 回： カウンセリング演習 ①
第 4 回： カウンセリング理論と技術 ② 行動療法	第 12 回： カウンセリング演習 ②
第 5 回： カウンセリング理論と技術 ③ 認知行動療法	第 13 回： カウンセリング演習 ③
第 6 回： カウンセリング理論と技術 ④ 来談者中心療法	第 14 回： 精神疾患について
第 7 回： ピアヘルパー ①	第 15 回： まとめ・総復習
第 8 回： ピアヘルパー ②	

テキスト： 日本教育カウンセラー協会編 2002『ピアヘルパー ハンドブック』 図書文化

参 考 書： 影山任左 著 『図解雑学 心の病と精神医学』 ナツメ社
 福山清蔵 著 『入門 カウンセリングワークブック』 日本・精神技術研究所
 国分康孝 著 『カウンセリングの理論』 誠信書房

評価方法・評価基準： 授業への参加度・レポート・小テスト・期末試験

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○				20
その他	○						10

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
ヘルスプランニング (体育理論：英語科対象) (Health planning)		音野 太志

授業の到達目標

健康に関する心身の諸問題についてその背景と解決策について理解すること。現在の自分のライフスタイルを健康の観点から認識し、今後のよりよいライフスタイルを形成していくための知識と態度を養うこと。

授業の概要

授業前半では、現代社会における身体的健康問題や、運動の効果について解説します。

またそれら講義と実体験を結びつけるため、実技演習を実施します。

授業後半では、心の健康に焦点をあて、コミュニケーショントレーニングの方法を援用し、自分と他者との関わりについて自己分析を試みます。

授 業 計 画

第 1 回： コースオリエンテーション、	第 9 回： 実技演習
第 2 回： 健康とは？	第 10 回： 心の健康
第 3 回： 現代社会の健康問題	第 11 回： ストレスとコミュニケーション
第 4 回： 自分を知る：体力年齢とは？	第 12 回： 対人コミュニケーション
第 5 回： 体力年齢測定	第 13 回： 応急手当
第 6 回： 健康づくりのための運動： 有酸素運動	第 14 回： 救急法
第 7 回： 正しいダイエット	第 15 回： まとめ
第 8 回： 中間レポート(授業内)	

テキスト： テキストは使用しない。講義ごとに資料を配布する。

参 考 書： 九州大学健康科学センター編 『健康と運動の科学』 大修館書店

評価方法・評価基準： レポート 60 点（中間 30 点、期末 30 点）、授業への参加度 40 点による。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				60(30×2)
授業態度				○	○		40
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	1 単位 (1-0)	担当教員
体育理論 [Physical Education(Theory)]		音野 太志

授業の到達目標

現代社会に生きる人々や自分自身の「からだの内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築できる知識と態度を養うこと。

授業の概要

授業前半では、現代社会における身体的健康問題や、運動の効果について解説します。
 授業後半では、スポーツメンタルトレーニングの方法を援用し、自己と他者の関わりから、自分自身の内面について自己分析を試みます。
 また、自分のライフスタイルを認識し、ふりかえることを目的に「生活習慣ダイアリー」を記録してもらいます。

授 業 計 画

第 1 回： コースオリエンテーション	第 9 回： 中間レポート(授業内)
第 2 回： 健康って？	第 10 回： 心の健康：心理テスト
第 3 回： 現代人の健康	第 11 回： コミュニケーションと対人ストレス
第 4 回： 運動不足の影響	第 12 回： コミュニケーショントレーニング
第 5 回： 運動の身体的効果	第 13 回： 応急手当の基本
第 6 回： 健康と運動	第 14 回： 救急法の基本
第 7 回： 健康作りのための運動、有酸素運動	第 15 回： まとめ
第 8 回： ダイエットに関する誤解と正しい知識	

テキスト： 使用しない。講義ごとに資料を配布する。

参 考 書： 九州大学健康研究センター編『健康と運動の科学』 大修館書店他

評価方法・評価基準：レポート 60 点（中間 30 点、期末 30 点）、授業への参加度 40 点による。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				60 (30×2)
授業態度				○	○		40
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	1 単位 (0-3)	担当教員
体育実技 [Physical Education (Sports)]		

授業の到達目標

- 1) スポーツの楽しさ、喜びを味わうこと。
- 2) スポーツに対して、「真剣に」「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになること。

授業の概要

教材としてバレーボールおよびバスケットボールをとりあげる。毎授業では技能練習と試合を実施する。個人とグループの諸課題について、1)実践 2)ふりかえり 3)次の課題設定 4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。

授 業 計 画

第 1 回 :	コースオリエンテーション (授業概要、目標、成績評価方法、等)	第 9 回 :	バレーボール : 総合練習、ゲーム
第 2 回 :	イニシアティブゲーム (コミュニケーションの促進と雰囲気作りのためのゲーム)	第 10 回 :	バスケットボール : 技能の自己認識
第 3 回 :	〃	第 11 回 :	バスケットボール : 個人技能練習、ゲーム
第 4 回 :	バレーボール : 技能の自己認識	第 12 回 :	バスケットボール : 個人技能練習、ゲーム
第 5 回 :	バレーボール : 個人技能練習、ゲーム	第 13 回 :	バスケットボール : チーム技能練習、ゲーム
第 6 回 :	バレーボール : 個人技能練習、ゲーム	第 14 回 :	バスケットボール : チーム技能練習、ゲーム
第 7 回 :	バレーボール : チーム技能練習、ゲーム	第 15 回 :	バスケットボール : 総合練習、ゲーム
第 8 回 :	バレーボール : チーム技能練習、ゲーム		

テキスト： 使用しない。

参考書： 特になし

評価方法・評価基準：授業への参加度 60 点 レポート 40 点 計 100 点による。実技試験は実施しない。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート			○		○			40
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度			○		○	○		60
その他								

履修上の注意：

- 1) 体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアで参加すること。
- 2) 金属製のピアス、ネックレス、ブレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。
- 3) その他の注意事項は初回授業時に伝達する。

授業科目名	2単位 (1-1)	担当教員
要約筆記 (ノートテイキング) (Note taking)		酒井 ひろ子

授業の到達目標

聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度や権利擁護が理解でき、対人援助の一つとして認識することが出来る。聴覚障害者の社会的状況に関心を持ち、チームで問題解決に取り組める。手書きノートテイクの基本的な書き方を習得できる。

授業の概要

この授業では、音声中心の社会での聴覚障害者の現状と課題を理解するために、講義・DVD・実習を組み合わせます。
手書き大学ノートテイクの基礎知識を習得すると共に難聴者、中途失聴者に対しての対応の方法を学びます。

授 業 計 画

第 1回	オリエンテーション	・聴覚障害の基礎知識	・聴覚生理と聴覚障害
第 2回	聴覚障害者の基礎知識	・聴覚障害のコミュニケーション	・中途失聴・難聴者の現状と課題
第 3回	要約筆記の基礎知識 I	・難聴者運動と要約筆記の歴史	・要約筆記事業の位置づけ
		・通訳としての要約筆記	
第 4回	日本語の基礎知識	・日本語の特徴	・日本語の表記
第 5回	要約筆記の基礎知識 II	・要約筆記の目的	・要約筆記の三原則
第 6回	要約筆記の基礎知識 II	・総合演習	・要約筆記の表記 実習
第 7回	話しことばの基礎知識	・話しことばと書きことば	・話しことばの特徴と活用
第 8回	話しことばの基礎知識	・総合実習	
第 9回	社会福祉の基礎知識	・日本国憲法と基本的人権の尊重	・社会福祉の理念と歴史 障害者権利条約
第 10回	伝達の学習	・要約の学習	
第 11回	チームワーク	・チームでの動き方	総合実習
第 12回	ノートテイク	・ノートテイクの方法	・書き方
第 13回	ノートテイク	・対応	・技術
第 14回	要約筆記者のあり方	・心構えと倫理	・要約筆記者としての専門性
第 15回	まとめ・授業内試験	・第 1回～第 14 回までのまとめと授業内試験	

テキスト：厚生労働省カリキュラム準拠 要約筆記者養成テキスト（上）（下）
「予約筆記者養成テキスト」作成委員会

評価方法・評価基準：試験 30%、レポート 30%、授業態度 20%、演習 20%、1/3 以上の欠席は不可。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		30
小テスト・ 授業内レポート	○		○				30
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習	○	○		○	○		20
授業への参加度						○	
その他							

履修上の注意：ペン、白紙は各自で毎回用意する。(1回目に説明)

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員																																																																
ボランティア (Volunteering)		オーガナイザー：城間仙子																																																																
授業の到達目標：社会に貢献できる自分を認識し、行動を通じて、自分と社会との関わりを学ぶ																																																																		
授業の概要：多文化共生時代を生きる「私」は、今、社会に対して何ができるのか。 真のボランティア精神育成のため、自分にできる社会奉仕を探し、実践することで、自分をみつめ、学びのきっかけを得ることを目的とする。																																																																		
授 業 計 画 30時間のボランティア活動を各自で行う。 * 学期、学年、種別を問わない。																																																																		
テキスト： オーガナイザーより個別に指示。																																																																		
参 考 書： オーガナイザーより個別に指示。																																																																		
評価方法・評価基準： 在学中に行った30時間分のボランティア活動の活動証明と、レポートを添えて、認定申請用紙と合わせて、オーガナイザーに提出。																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に含めず</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に含めず</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に含めず</td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に含めず</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に含めず</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に含めず</td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)							100	小テスト・ 授業内レポート							評価に含めず	授業態度							評価に含めず	受講者の発表							評価に含めず	演 習							評価に含めず	授業への参加度							評価に含めず	その他							評価に含めず
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価 試験 (中間・期末試験)							100																																																											
小テスト・ 授業内レポート							評価に含めず																																																											
授業態度							評価に含めず																																																											
受講者の発表							評価に含めず																																																											
演 習							評価に含めず																																																											
授業への参加度							評価に含めず																																																											
その他							評価に含めず																																																											
履修上の注意： ①ボランティア先への交渉等は、各自の責任において行うものとする。 ②公共性のあるボランティア活動を対象とする。																																																																		
認 定 方 法：所定の様式に添って、報告書とレポートを提出する																																																																		

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
日本語音声表現Ⅰ・Ⅱ (Japanese Speaking and Listening I・II)		上原 明子

授業の到達目標

知識理解：日本語音声の音声学的知識により、効果的な音声表現訓練へつなげる
 思考判断：日本語での効果的なプレゼンについてセルフ・ラーニングできる
 関心意欲：日本語音声に対する積極的な取り組みを通し、学ぶ意欲を喚起する
 態度：日本語力を高めることで、日本社会への積極的な関わりにつなげる

授業の概要

日本語音声表現Ⅰ・Ⅱを通じ、大学で学ぶのに必要な日本語の聞き取り力、音声表現能力の向上を目的とし、聞き取りのストラテジーの養成、スピーチ、ニュースや文学作品の朗読についての学習を行う。

Ⅰでは、聞き取りの基本的な学習とニュースやスピーチ、対談、講義など、様々なタイプの音声テキストを使用し、聴解力の養成を行う。

Ⅱでは、Ⅰの学習を展開させ、内容分析と表現方法についての学習を行ない、スピーチや朗読等、音声言語での表現力の養成を行う。

授業計画 (外国人留学生対象科目) ※学習者の状況により変更あり

日本語音声表現Ⅰ (前期)

第 1 回 オリエンテーション、レベルチェッククイズ
 第 2～15 回 テキスト 1 課～14 課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義と実践を行う。

- クラス展開：
- ① 確認テスト(テキストについて、課題確認)
 - ② トピックについての事前学習
 - ③ 聴解
 - ④ 語彙、内容確認
 - ⑤ 聞き取りのストラテジーの講義と実践
 - ⑥ 課題

日本語音声表現Ⅱ (後期)

第 1 回 オリエンテーション、レベルチェッククイズ
 第 2～4 回 日本語音声について [声に出して読むこと、文章の読み方、リズム構造]
 第 5～7 回 音声表現の技法① [文体との関係、叙述文と状況描出文、ニュース]
 第 8～10 回 音声表現の技法② [テンポ、内容分析と演出、朗読]
 第 11～15 回 音声表現の技法③ [スピーチ]

テキスト・参考書：Ⅰ：1. 山本富美子・工藤嘉名子『国境を越えて [本文編]』新曜社
 2. 山本富美子・工藤嘉名子『国境を越えて [文型・表現練習編]』新曜社
 Ⅱ：講師作成資料配布

評価方法・評価基準：1. 毎回の授業ごとの確認テスト 2. 課題への取り組み

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○					30
小テスト・ 授業内レポート		○	○					20
授業態度				○	○			20
受講者の発表					○	○		30
演習								評価に含めず
授業への参加度					○			評価に含めず
その他								評価に含めず

履修上の注意：①日本語音声表現ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。

②復習、課題をきちんとこなすこと。 ③辞書等を持参すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
オーラルイングリッシュ (Oral English)		Michael Hertz

授業の到達目標
保育で必要とされる英会話の表現力を身につける。

授業の概要

この講義の目的は、保育の現場でますます必要とされる英会話の表現力及び理解力を育てることにある。また米国の初等教育制度を学ぶ学生は、海外研修に備え、教育又は保育現場で使用される日常英会話を始め、専門的表現の学習を目的とする。

簡単な英会話スキット／寸劇の作成、英語で童謡の合唱や、英語を使ったゲームなどに親しみながら、実際に米国の教育または保育現場で用いられている英語の表現とアクティビティを学習する。

授 業 計 画 ※講義内容については、若干変更になることがあります。

- ・ 米国の保育の現場で日常的に使用されている英語の表現力を習得させる
- ・ 広く親しまれているゲーム等とおして英会話の発達と理解を深める
- ・ 児童向けの歌やダンスの練習をとおして英語を学ぶ楽しさを教える
- ・ 英会話と発音のスキルアップ及びボディランゲージを使つての表現の向上
- ・ 簡単な英会話スキットの作成と実演
- ・ 英語の絵本を読んでみよう
- ・ 授業の進め方、児童の扱い方
(良い例・悪い例を交えながらマル秘テクニックを伝授)

テキスト： 教材は、その都度講義担当者が準備、配付する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：授業への参加度、授業への積極的参加、個人およびグループワークを総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

- ・ 授業への参加が最も重視されるので、欠席しないように。
- ・ 個人及びグループワークへは積極的に参加するように。
- ・ 正当な理由以外の欠席は一切認められません。よつてそれ以外の欠席は届けなくてもよい。(公欠のみ提出)
- ・ 出席状況については各自で確認すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英語 (English)		Michael Hertz・David Itokazu

授業の到達目標： Develop English communication skills necessary in preschool and kindergarten working environment

授業の概要 The objective of this class is to develop English communication skills increasingly necessary in today's preschool/kindergarten/elementary school working environments. Students wishing to study the American elementary school system abroad will also gain valuable knowledge in preparation for their foreign experience trip. Everyone will be expected to participate in simple skits, songs, games and lectures, etc. to improve their skills and confidence. This class is designed to be fun and enlightening.

授 業 計 画

第1回：	Introduction and Requirement of the Course / Student Self Introduction Learn to Control the classroom environment from the first day of class. Play popular games used to develop English use and comprehension and break down the game structure to identify key learning points.	第8回：	Lecture & Group Discussion: Longevity (Okinawa highest life expectancy in the world) Read children's books aloud and discuss inner messages
第2回：	Lecture: Why Study English Learn and participate in children's songs that help guide mental development	第9回：	Classroom management techniques: Destructive Diet, Exercise and Healthy Lifestyle
第3回：	Lecture: The Art of Listening for Effective Communication Learn and participate in children's dances that help guide physical development	第10回：	Classroom management techniques: Motivational Exploring Internet and the Best of Internet
第4回：	Introduction of Basic Vocabulary for Basic English Communication Learn common English vocabulary used in the pre-school / kindergarten and elementary education	第11回：	Current Events related Culture, Education and Globalization Identifying and acting on concerns for children's safety
第5回：	Seasonal Arts and Crafts DVD: Title: "Contact" Basic Communication and Human Understanding	第12回：	Learn to create a yearly, monthly, weekly and daily curriculum Global Community and Global Communication
第6回：	Fun with verbal and non-verbal skills development DVD: Title: "Laughter"- Babies Non-Verbal Communication	第13回：	The Assistant Language Teacher: Duties and Responsibilities DVD : Universal Music and Global Communication : Timeless Songs
第7回：	Lecture & Group Discussion: Population Decline in Japan (Lowest fertility rate in the world) Participate in simple skits	第14回：	Communication with foreign parents: cultural differences and more DVD : Movie on The Art of Giving / Sharing
		第15回：	The power of praise Summary and Conclusion

テキスト： References: Textbooks ↓

- 1) Jump-Start Your English 2) BBC Documentary Natural Remedy 3) World English Introduction 4) Expanding your Vocabulary Skills
Materials are prepared and provided by the instructor for every class except for some portions of Arts and Craft classes.

評価方法・評価基準：

Class attendance, participation, and individual/group presentations will be incorporated in the final grade.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 (試験 (中間・期末試験))							評価に加えず
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度	○	○	○	○	○		20
受講者の発表	○	○	○	○	○		20
演習	○	○	○	○	○		20
授業への参加度	○	○	○	○	○		20

履修上の注意： Class participation weighs heavy, so it is important not to miss class. Enthusiastically participate in group and individual presentations. Do not submit absence requests other than (Seitou); they will not be accepted. Generally, keep track of your own attendance, but ask when needed.

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
中国語		武村 朝吉

授業の到達目標及びテーマ

中国語の発音（声調コントロールを含む）の基礎を習得する。それと並行して、基本的な文法事項を理解（約 30 個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができることを目標とする。

授業の概要

中国語のピン音（発音記号）の概要を説明すると同時に、個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。この授業では、テキストの第 1 課から第 10 課までを学習する。

授 業 計 画

第 1 回： 中国語の発音、ピン音、声調	第 9 回： 提案の仕方、“有”文
第 2 回： 発音練習、ピン音書き取り練習	第 10 回： 介詞構造
第 3 回： “吗”を用いた疑問文	第 11 回： 時間詞
第 4 回： 疑問代名詞を用いた疑問文	第 12 回： 連動文
第 5 回： 形容詞述語文	第 13 回： 連用修飾語
第 6 回： 動詞述語文	第 14 回： 方位詞
第 7 回： 所属・所有関係を表す連体修飾語	第 15 回： 反覆疑問文
第 8 回： “是”文、名詞述語文	

テキスト：『漢語会話 301 句』康玉華・来思平著作，語文研究社

参 考 書：

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		70
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		20
受講者の発表	○		○	○	○		
演 習	○	○			○		10
その他							

履修上の注意：相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5 回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
韓国語 (Korean)		李 春花

授業の到達目標及びテーマ

ここ数年、地理的にアジアの中で一番近い隣国であり、歴史的に密接な交流関係を展開した日本と韓国の間
に大衆文化の開放的交流が活発になり、韓国語を学ぶ人の数も急速に増えている。本授業を通し、韓国語のみ
ならず隣国である韓国の文化や社会に対する理解を深め、21世紀の主演として、国の境界線を越えたグローバ
ルな視点を養い、将来様々な形で国際的交流に役立つ能力を身につける。

知識理解：ハングル文字を読み書き、易しい日常会話と発音を聞き話し、簡単な文法を説明できる。

関心意欲：異文化コミュニケーションに興味を持てる。 態度：専門性、責任意識を持つ。

思考判断：日本と韓国との文化や社会的共通点と相違点を指摘できる。

授業の概要

韓国語の語順は日本語とほとんど同じなので、初めての学習者でもわかりやすい。

初めての学習者でもわかりやすく楽しめるように常に心がけ、ハングル文字の学習、易しい日常会話
を中心に基本文法を扱い、講義を進めながら、韓国文化と歴史、韓国人とのコミュニケーションの取り方、DVDや
インターネット等の視聴覚材料をもって韓国の歌やドラマ及び映画などを紹介する。

学生の準備学習

予習：テキストを事前によく読み、新しい会話表現と基本文法の知識を再確認しておくこと。

復習：授業の際に指示した課題に積極的に取り組み、講義の内容をより理解し、応用に努めること。

授 業 計 画

- 第 1 回： 授業計画（韓国を知る・ことばの特徴・ハングル文字について）と自己紹介
- 第 2 回： テキスト第 1 課 挨拶表現(1)と母音(1)、歌の学習
- 第 3 回： テキスト第 2 課 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2)
- 第 4 回： テキスト第 3 課 挨拶表現(3) と子音(2)・母音(3)
- 第 5 回： テキスト第 4 課 挨拶表現(4)と終声(パッチム)
- 第 6 回： テキスト第 5 課 挨拶表現(5)と発音の変化
- 第 7 回： テキスト第 6 課 自己紹介と指定詞、学生のレポート発表&意見交換 1
- 第 8 回： テキスト第 7 課 会話(1)と指定詞の否定形、学生のレポート発表&意見交換 2
- 第 9 回： テキスト第 8 課 会話(2)と합니다体、学生のレポート発表&意見交換 3
- 第 10 回： テキスト第 9 課 会話(3)と漢数字、学生のレポート発表&意見交換 4
- 第 11 回： テキスト第 10 課 会話(4)と固有数字、学生のレポート発表&意見交換 5
- 第 12 回： まとめ・授業内試験(会話)
- 第 13 回： 復習や授業についての意見交換
- 第 14 回： 韓国映画鑑賞
- 第 15 回： まとめ・授業内試験（筆記：ハングル文字）

テキスト：姜英淑外 5 人著『楽しく学ぶ ハングル 1』白帝社

参 考 書：入佐信宏・文賢珠著『よくわかる 韓国語 STEP1』白帝社

木内明著『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』国書刊行会

評価方法・評価基準：

- ・期末テスト 40%(会話:自己紹介等のフリートーク 10%、筆記:ハングル文字 30%)
- ・毎回の課題提出（会話とハングルに関する学習） 20%
- ・韓国文化についてのレポート提出(A4 用紙 1-2 枚) & 発表(3 分程度) 20%
- ・授業への参加度（遅刻や私語等減点） 20%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	専門性・責任	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○		○	○		40
毎回の課題提出	○		○				20
レポート提出&発表		○	○		○		20
授業への参加度			○	○		○	20
演 習							評価に加えず
その他							

履修上の注意：授業中に発音練習、レポート発表&意見交換などに積極的に参加すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
スペイン語 (Spanish)		又吉 パトリシア

授業の到達目標

初めてスペイン語を学ぶ生徒がスペイン語の基礎文法を習得し、簡単な会話と自己紹介ができるように、またスペイン語圏の国々の事情及び文化などを知ることを目指す。

授業の概要

世界のスペイン語を話す人口は現在およそ4億人以上といわれ、スペインだけでなくラテンアメリカの19の国々でも公用語として使用されている。特に沖縄県では多くの移民を中南米へ送り出したという歴史的な理由から、今日でも経済的、文化的な交流が活発に行われている状況にある。講義では教科書だけではなく、副教材として歌やビデオ教材、映画などを使って、スペイン語圏の世界を紹介する。

授 業 計 画

- 1回： 世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係の紹介
- 2回： スペイン語の特徴(アルファベット、発音、アクセント)
- 3回： 主語人称代名詞、SER 動詞の直接法現在形の活用
- 4回： 名詞の性と数、定冠詞(定冠詞、不定冠詞)、HAY 動詞、数字0~10
- 5回： 時刻と日付を表す(数字：11~、曜日、月)
- 6回： ESTAR 動詞の直接法現在形の活用、場所を尋ねる
- 7回： SER 動詞と ESTAR 動詞の比較
- 8回： -ar 動詞の直説法現在形の活用、前置詞
- 9回： -er と -ir 動詞の直説法現在形の活用、疑問詞
- 10回： 日常生活について話す(動詞の直説法現在形の復習)
- 11回： 値段の聞き方、買い物とレストランでの会話
- 12回： 間接目的格人称代名詞、GUSTAR 型の動詞の活用
- 13回： 復習、スペインの夏祭りの紹介
- 14回： 期末テスト
- 15回： 自己紹介また家族の紹介についての発表、前期のまとめ

テキスト：1. 『OKINAWA LATINA』スペイン語への架け橋 (沖縄県スペイン語教材開発研究会) (¥1,000)

参 考 書：1. 講師作成資料

2. 「スペイン語ミニ辞典」宮城・宮本編 白水社(¥2,800)、またはスペイン語電子辞書

評価方法・評価基準：最終評価は次の点の合計点とする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験(中間・期末試験)	○	○			○		50
小テスト	○	○			○		10
授業態度 授業への参加度	○	○	○	○	○		15
受講者の発表	○	○	○	○	○		10
演 習							X
宿題	○	○	○		○		15

履修上の注意：

- ①テキストとスペイン語辞典(電子辞書)を持参すること。
- ②動詞の活用をよく予習・練習すること。
- ③頻繁に小テストを実施するため宿題、予習、復習等をこなすこと。
- ④配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。
- ⑤授業中はマナーを守ること(携帯電話・スマートフォン、タブレット等の使用禁止、飲食の禁止)